

特定非営利活動法人手賀沼トラスト会報 第 21 号(発行日:平成 25 年 4 月 1 日)

「沼のほとり」

発行責任者 遠藤織太郎(TEL:04-7182-0387) 編集責任者 國方幸生(TEL:04-7184-3385)

事務所:我孫子市白山二丁目 13 番 5 号

e-mail:info@tegnuma-trust.jp

ホームページ:http://tegnuma-trust.jp/



(根戸城址のサクラ)

平成 25 年度 農 教 室 開 講 式

平成 25 年度の第 1 回目の農教室が 3 月 9 日(土)に行われました。例年この時期はまだ寒い日が多いのですが、今日はお天気も良く 4 月ごろの陽気で青空のもと、今年新たに加わった受講生 24 名を迎えて開講式が行われました。開講式では、遠藤理事長のご挨拶があり、手賀沼トラストの精神である「自然と共生する環境にやさしい作物づくり」を学び取っていただき、お互い同士の親睦を深めながら、この 1 年健康と安全に気を付け、楽しく農教室を続けて欲しいというお話がありました。

開講式のあと、新入生の紹介とスタッフの方々の紹介がありました。そのあと、本日のメインの作業である堆肥とぼかし肥の作り方について福井リーダー、浅妻リーダーよりそれぞれ講義がありました。テキストや黒板を使いながら、とても分かりやすい説明でした。講義のあと、早速、田んぼ脇の圃場に移動し実習です。リーダーの指示に従いながら作業を進め、ほぼ予定通りの時間で作業が完了しました。

私は手賀沼トラストに入って今年で 3 年目になりますが、私にとって農教室は健康維持のためにも欠かせないものになりました。農作業は肉体を使わないと仕事になりませんが、汗をかくと新陳代謝もよくなり適度な運動になります。大空の下で、そよ風を感じ、四季の移ろいを感じながら、自分たちで育てた旬のものを食べると、自然とともに生きていることが実感できます。農薬などを使わない安全なものを目指して、自分たちで作ったものはおいしいです。おいしく食べることは健康の秘訣です。人間は自然とともにあるのが本来の姿です。人間は自然から離れた生活をすればするほど不健康になっていく気がします。先日の 15 周年の記念講演でのケビン先生のお話が思い出されます。(前号に掲載)

今年 1 年、新しい仲間の方々と一緒に健康に気をつけて楽しく農教室を続けたいと思っています。また今年、手賀沼トラスト創立 15 周年記念の年ということで色々な行事やイベントが予定されており、皆様と一緒に楽しみながら手賀沼トラストの事業にも協力し、活動して行きたいと思っています。

(村山 正 記)

活動報告**ジャガイモの植付け・田んぼの畦塗り****農事・農教室グループ**

3月23日(土)は農教室第2回目の実習日です。日暮会場での講義の後、3年次生以上の受講生は田んぼで除草、畦塗り、肥料の散布を行いました。1、2年次生の方々、30名ほどでジャガイモの植付け、長ネギとニンジンの播種を行いました。ジャガイモは福井リーダーの説明で、ミカン山圃場の山を背にして左側(東側)の9畝にメイクインを、右側(西側)にキタアカリを10畝に植えました。次に牛糞、発酵鶏糞、油粕を施肥、覆土して終了。富澤さんの発案で、城址で間伐した竹を利用して作った竹片にそれぞれ名前を書き、自分で植えた箇所に差し込みました。収穫の時の「マイ・ジャガイモ」が楽しみです。長ネギは大森リーダー、日暮さんと数名で播種、覆土、灌水、シート掛けを行い終了。ニンジンは永谷リーダーの指導で、チーム永谷のメンバーを中心に施肥、播種、灌水、ワラでマルチ掛けをして終了。田んぼに向いました。

田んぼでは、元肥として牛糞、鶏糞、油粕を施肥、去年の古株の踏みつけをしました。田んぼでのお楽しみは、休憩時間に養蜂部会の皆さんが採蜜したハチミツが振舞われたことでした。小生も自分の家庭菜園で先週ジャガイモを植えました。元肥には牛糞と発酵鶏糞を施しました。植えた品種はアンデスと中まで紫色のシャドークインです。芽が出ていない状態で、芋を切ったため、芽のない部分があって発芽しないのでは…? と心配です。(湯原 清 記)



(田んぼの畦塗り)

出張報告**木更津雑穀村視察****農地保全グループ**

2月4日(月)、遊休の農地における雑穀栽培の実情視察のため、食品卸業グッチトレーディング社の林さん、雑穀栽培農家の小川さんを訪問した。

林さんの本業は酒類卸。お酒を美味しく飲むには健康でなくてはならないという考えから雑穀の加工に取り組んでいる。これまでに雑穀を使ったパスタソースなどを商品化しているが、最近商品化されたのが雑穀を練りこんだ「パーティ」。バンズに挟んだハンバーガーをご馳走していただく。白身魚のような食感。

農商工連携事業に認定された加工場が昨年末にできあがり、これから本格的に生産販売したいという。その加工場スタッフの関り方が興味深い。パート賃金の一部は雑穀商品購入のための割引で支払われる仕組みで、従業員時間に応じて割引率は3段階になっている。賃金の一部を現物支給にするという意味もあるが、雑穀消費の拡大がねらい。

雑穀の商品化にあたって日常的に消費する食習慣がないことが最大の課題。身体に良いからと一度は手にとっても続かないのが実情。雑穀料理教室も度々催しているようだが、割引券は日常的に雑穀を食べてもらえる呼び水になればという考え。消費拡大はまず身内から。有給農地を活用しかつ健康的な食材を提供するという仕組みを構築しても、それを支えてくれる消費行動が伴わない実情はなたね油、ひまわり油を搾油しているNPOでも同じことを聞いた。

プロジェクト仲間の農家、小川さんは、いわゆる中山間地の専業農家。周辺の耕作放棄水田は獣害の温床になるという。雑穀の脱ぶは専門の脱ぶ機と循環式精米機の二つを使いこなす。米の十分の一にもならない大きさが難点。ある程度の面積をこなすと機械は不可欠。乾燥度合が重要。(杉野 光明 記)

研修報告**房総十字園研修報告****環境保全グループ**

3月6日(水)朝10時、日暮家の駐車場に集合。富澤の運転で金井、吉田(明)、村山の果樹部会メンバー4人で市原市にある観光ミカン園、房総十字園に研修に行ってきました。途中で昼食をとり、12時過ぎに到着。園長の刈米さんから1時間あまり教えていただきました。ミカンの木は開心自然形ではなく垣根作りにし、通路を機械で除草していること、圃場全体にワラを敷きつめ鶏糞を散布し、雑草の抑制と施肥を兼ねていること、ワラの間から雑草がでたらそれを刈り倒しそのままマルチにすることなど、できるだけ無駄な手をかけずに管理しており、トラストでの作業の参考になるようなことが沢山ありました。

剪定・整枝については、実技を交えながら教えていただきました。間引き剪定ですが、見る間に樹木の中まで陽が当たるようになっていく様は実に見事なものでした。コツは木全体を見て切るところのめぼしをつけ、あとは迷わず切ることだそうです。内向枝、直上枝、交差枝、平行枝など、邪魔な枝を切っていくのですが、見ていると自分にもできそうな気がしてきました。帰ったら皆で技を競い合いながら剪定しようと約束しました。(富澤 崇 記)

昨年 11 月、千葉県立農業大学校でトラクターの基本研修を受講した。トラクターの基本構造、圃場整備技術、アタッチメントの着脱、トラックへの積み下ろしなどを教えてくれると思って応募したが、公道を走るための「大型特殊(農耕車限定)」免許取得コースであった。農耕車は通常時速 15km 以下なら自動車普通運転免許証で公道を走行できるが、近年、「ハイスピード」と呼ばれる時速 20km 近くのスピードで走行できる大型トラクターが普及してきており、農業者向け交通法規取締り対策という性格が強い講習会であった。

運転免許教習所のごとく、連日コースを試験官の指導のもと運転する。初日はエンスト多発。右コーナーをある時は左折ウインカーで通りすぎ、ある時は右折ウインカーで一時停止するという失態が続き、途中で研修をあきらめようかと考えたことも。30～40 代の若い参加者は早々に対応できていたし、大学校からは毎年 200 人前後全員合格させている実績もあるというので、思い直して研修を続けた。毎日のんびり過ごしている身には久々に緊張の 2 週間であった。

より上位の農業機械士研修コースはもっと厳しい内容とか。良い教科書をもらえ、資格があると補助金プロジェクトに有利らしいが、実務体験時間はそんなにない。今回の参加者の中にイオン柏農場長や柏市箕輪地区の農家もいて、親しくなれたことも良かった。多分、トラスト会員で唯一(農家以外で)の免許取得者であろうと思う。機会があれば免許を有効活用したい。

(岡崎 勲 記)

会員コーナー

所 感

杉野 光明

いま流行の TPP、あなたははどう思うの? と問われることがあります。TPP がわが国に利益をもたらすかどうかはわからないが、農家もある程度は国際的な自由経済の中で生き残りを図らなければならない。むしろ、TPP の本質を隠すために参加に反対するのは農業団体だけかのように報道していることが問題ではないかと考えています。

ひと言で「農業を守れ」といっても、「食料を生産する事業としての農業」を守るのか、「農家」を守るのか、「農地」を守るのか、分けて考えた方が良いでしょう。

30 年前、私が就農する際、環境問題へのひとつの取組として生活と経営を両立できる家族経営農業が理想という思いがありました。しかし、担い手不足や耕作放棄地など当時も課題とされた状況が、今日、更に深化しているように思います。実は、農業生産の基盤としてよりも家の財産として保有したいがために、農家が農地を囲みこんでいて自らこういった問題を招いているという指摘もあります(神門善久『日本農業への正しい絶望法』、新潮新書、2012 年)。ほとんどの農家(兼業農家)は TPP を切実な問題として感じていないのかもしれませんが。

一方で、TPP のような外圧を待つまでもなく、農産物流通はすでに市場機能が失われ、少数の大手業者によって支配されています。農業が事業として生き残るために大規模経営になるのは必然的状況です。食糧生産が企業的経営になれば、作りやすいもの、売れるものしか生産しなくなります。消費者は選択の幅の狭い食べ物で満足するか(させられるか)、満足できなければ自ら食べ物を作らなければなりません。あるいは、食べたいものをつくってくれるよう生産者と提携しなければなりません。前者は家庭菜園や市民農園であり、後者は契約栽培とか“TEIKEI(提携)”でしょうか(わが家も多角化による“提携”を目指すか)。ドイツのように家庭菜園が普及すれば国内食料自給も可能という主張もあります(永田照喜治『それでも食料自給率100%は可能だ』小学館新書、2011年)。

農家も食料生産もなんとかかなりそう。では、先人達が血と汗を流して作り上げてきた農地はどうか。土は生き物です。適正な管理がなければ作物を育てる力を失います。子孫たちが餓えないよう生きた土を継承することがわれわれの役割です。しかし、企業的経営農場や家庭菜園がいくら盛んになっても農地のすべてを維持管理することは難しそうです。

手をかけなくても農地が保全できる方法はないだろうか。国産大豆を売り出そうという農家があります。竜ヶ崎ではナタネ、ヒマワリから食用油を生産しているNPOがあります。木更津には雑穀を栽培加工して商品化しているグループがあります。採蜜作物で景観形成と蜂蜜生産を目指すこともいいかもしれません。しかし、何れも採算のとれる事業にできるかが問題のようです。

「農業のあり方を考えることは、自分がどんなものを食べて生きていきたいかを考えること」、知恵と労力のあるNPO の出番です。

昨年一年を振り返って

中井 博

昨年は有志で柏市内の畑で農作業体験農園の運営と搾油用ヒマワリ、雑穀ヒエの栽培を試みました。ボカシ肥料を作り、トラクターで耕耘、休憩所を兼ねたビニールハウスを作り、体験農園の区画割り、種や苗の準備…。農園は新しいことへの喜びと意気込みに満ちていました。種を蒔き、苗を植え、水を遣り、雑草を取り、支柱をたて、網をかけ、夏にはヒ

マワリもヒエも人の背丈より高く伸びました。体験農園の会員も増え、いつしか収穫祭ができるようになりました。「あのイーハトーヴの透きとおった風、夏でも底に冷たさをもつ青い空…。」(宮沢賢治)農園いっぱいヒマワリの花が咲き始めたころから、イーハトーヴの風景でした。体験農園会員の笑顔、駆け回る子どもたちの姿。それは自分達で野菜を育て、収穫できたことへの喜びでした。

ヒマワリは10アールの土地から150kgの種を収穫し、龍ヶ崎市のNPOに搾油を依頼、50リットルのヒマワリ油ができましたが、残念ながら異様に変色された油、食用には適さない油でした。もう一度チャレンジです。

ヒエは虫害に遭いながらも3アールの土地から50kgの殻付きヒエを収穫したのですが、私たちができるのはここまでです。ヒエはその名のとおり微小なので、専門の機械でないと脱穀ができません。そこで遊休のうちを活用しながら雑穀の生産、商品化に取り組んでいる農家と商業者チーム「木更津雑穀村」にヒエの処理を依頼することにしました。

2月4日、有志メンバー4人でヒエの持込みと合わせて雑穀村の活動の様子を聞いてきました。脱穀は専門の機械と循環式精米機の二つを使いこなすとか。雑穀からはこれまでにパスタソース等を商品化していますが、最近商品化されたのが、「パティ」です。早速バンズに挟んだハンバーガーをご馳走になりました。白身魚のような食感、美味しいです。

さて、持ち込んだヒエは乾燥度などの問題がありそうです。ヒマワリ同様、原材料として使えるかどうかはまだわかりません。対応してくれた加工販売事業者のHさんから「今年もヒエを作りましょう」と声をかけてもらいました。初めての挑戦には失敗がつきものです。このことを良い経験に「食べたいものは自分でつくりたい」の気持ちはまだまだ続きます。

～「我孫子市手賀沼沿い農地活用計画」についてのパブリックコメントに応募しました～

富澤 崇

私は目の前に広がる田園風景と手賀沼の景観に惹かれて、5年前にこの地に越してきたいわゆる新住民です。おかげさまで退職後の生活を豊かな自然の中で満喫させていただいております。

越してきた年の9月、自宅前の田で稲刈りが始まりました。レンゲの肥やしが効きすぎて稲が徒長し倒伏がひどいので、手で起こしながらコンバインで刈りとっていきます。お母さんと若夫婦の3人だけの作業です。見兼ねた私も途中から勝手に参戦しました。ところが、今度はコンバインが故障。にっちもさっちもいきません。仕方なく、残りの田1枚は鎌で刈り取り、終わった時は薄暗くなっていました。

これをきっかけに毎年、畔の草刈りを手伝うようになりました。米の慣行栽培は、機械さえあれば兼業農家で十分可能のようですが、畔の草刈りは高齢のお母さんの仕事で、夏の暑いさなかの作業は大変です。こちらの都合のいい時間だけ、涼しくなった頃合を見計らって、刈払い機で毎日少しずつ刈ります。頼まれたわけではないので、勝手に、自分の刈払い機で、ガソリンは自前で刈っています。報酬は豊かな景観と思ってやっていますが、新米をいただいたり、年末には餅をいただいたりして恐縮しています。

このような近隣住民や市民による勝手連的な活動を市がお膳立てし、助成することができないでしょうか。援農というシステムがあることは承知していますが、もう少し地域に密着したかたちで、近隣の顔見知りによるお手伝いができるとうよいと思います。船戸の森を整備している「船戸の森の会」は近隣住民によるボランティア組織です。会員の努力で、森は明るくきれいになり、散歩する人達も増えました。根戸新田地区の田畑についても、このような力を利用する術がないでしょうか。たとえば、手賀沼トラストに草刈りの「手伝い」を依頼することなども考えられます。私も手賀沼トラストの会員ですが、トラストには刈払い機やトラクターを使える人材がいます。

昨年8月には、ふれあい道路の南側、沼に接した田で除草作業をしていたトラクターが田に沈み、動けなくなりました。ユンボで引き上げてもらい事なきを得ましたが、トラクターでの除草ができなくなりました。やむえず、私も手伝って仮払い機で刈り取りましたが重労働でした。根戸新田地区の沼側の田はどこも耕作されておらず、除草作業が農家の大きな負担になっています。せめて、沼側の田だけでも市で借り上げ、管理したらどうでしょうか。1月29日の朝日新聞朝刊に、休耕田に冬だけでも水を張り、水鳥を呼び戻そうという提言がのっていました。冬は水を張り、夏以降は高畝にして、そば、ひまわりなどの景観植物を植えたらどうでしょうか。

私は趣味で日本ミツバチを飼っています。伝統的な重箱式の飼育法なら、手間はかからずそれなりの量の蜜がとれます。蜜源植物さえ豊富なら、かなりの数の群れを飼うことができます。耕作放棄畑に春は菜の花、夏はひまわり、秋はそばと輪作をして、蜜源植物を確保すれば、地域の農家の方でも蜜が採れます。もちろん、菜の花、ひまわり、そばは景観植物にもなります。その蜜を使って作ったスイーツを直売所で販売したり、根戸新田地区を日本ミツバチの里として売り出したりもできそうです。(「銀座ミツバチ物語」時事通信社をご参照下さい。)

平成 25 年 4 月 1 日

平成 25 年度 運営体制について

平成 25 年度の運営体制について、平成 25 年 3 月 31 日開催の平成 24 年度第 12 回定例理事会に於いて、下記のとおり承認されましたので、お知らせいたします。

NPO 法人手賀沼トラスト 理事長 遠藤織太郎

記

理事長：遠藤 織太郎

副理事長：寺田 太郎、杉野 光明

理事：浅妻 正、桐石 二男、國方 幸生、坂巻 宗男、富澤 崇、原 勇一、吉田 明

監事：関 重男、原田 泰夫

顧問：加太 肇江

【注】平成 25 年度は役員改選期につき、上記の理事並びに監事は全員就任内定者、通常総会にて審議決定。

(敬称略、順不同)

部 門	リーダー (執行責任者)	サブリーダー等	運営スタッフ
理事長付	原 勇一		
環境保全 G	寺田 太郎	果樹部会担当：富澤崇 養蜂部会担当：富澤崇 竹教室：高瀬正三郎	原田、鈴木 (健)、谷口、遠田
農事・農教室 G	浅妻 正	計画担当：富澤崇 庶務担当：川瀬邦子 サポートチーム担当：桐石二男 田畑整備チーム担当：桐石二男 特別コース担当：浅妻正 バーブ部会担当：國方幸生 販売担当：浅妻正	(指導チーム)：大森、安倍、國方、 福井、永谷、中澤、浮田、舛本、中 野 (和)、吉田 (明)、吉田 (考)、 北村 (サポートチーム)：中井、徳井、 平井、川瀬、栗山、七海、北田、伊 藤、遠田、小堀 (田畑整備チーム)：中井、徳井、 舛本、伊藤、遠田、小堀、浮田
農地保全 G	杉野 光明	桐石二男	岡崎、徳井、中井、舛本
交流事業 G	坂巻 宗男	福井 教之	遠藤 (洋) 坂巻 (道)、寺田 (久) 川瀬、星野、須原、栗山、富澤、村 山
事務局	國方 幸生 (会計責任者)	会計・税務担当：吉田明 総務担当：富澤崇	前田、中野 (和)、北田、七海、齋 藤、永野、平井、村山、谷口
15PJT	遠藤織太郎	総務担当：國方幸生	坂巻、杉野、須原、富澤、原田、福 井

● 4月～月度活動計画（※ 全会員が対象の「合同活動」・「イベント」等に「網かけ」をしています。）

活動日	時間	区分	活動内容	担当部門
4/7	日 8:30 12:00	定例	根戸城址周辺清掃、ハス田管理、果樹部会:ミカンの剪定・施肥 養蜂部会:巣箱管理、蜜源圃場管理(定例活動終了後)	環境保全 G
4/13	土 8:30	農教室	稲予措、ヘチマ、カボチャ、ニガウリ播種、杉野アドバイザー講義	農事農教室 G
4/20	土 8:30	農教室	稲の播種、サトイモ、ヤツガシラ植付け	農事農教室 G
4/21	日 8:30 12:00	定例	根戸城址周辺清掃、マルイグループ福祉会ボラ受入れ準備 養蜂部会:巣箱管理、蜜源圃場管理	環境保全 G
4/24	水 8:30	合同	マルイグループ福祉会ボラ受入れ、樹林地管理	環境、交流 G
4/25	木 9:00	竹教室		環境保全 G
4/27	土 8:30	農教室	トウモロコシ播種、サトイモ植付け	農事農教室 G
4/28	日 16:00	会議	15PJT、安全管理委員会、定例理事会(～21:00)	事務局
4/29	月 9:00	農教室	特別コースセミナー	農事農教室 G
5/4	土 8:30	農教室	プール育苗、スイカ、ナス定植	農事農教室 G
5/5	日 8:30 12:00	定例	城址通り清掃、樹林地管理、果樹部会:ミカンの管理 養蜂部会:巣箱管理	環境保全 G
5/11	土 8:30	農教室	エゴマ、ラッカセイ播種、支柱設置	農事農教室 G
5/18	土 8:30	合同	田植え(田んぼ用長靴準備)、早苗饗(赤飯、豚汁、蕎麦がきあり)	農事農教室 G
5/22	水 9:00	竹教室		環境保全 G
5/26	日 9:00 16:00	農教室 会議	特別コースセミナー 15PJT、定例理事会(～21:00)	農事農教室 G 事務局
6/1	土 13:00	会議	平成 25 年度通常総会・懇親会(けやきプラザ、～17:00)	事務局

ありがとうございました！

- ◆ 遠藤織太郎様から、我孫子市市民活動サポート委員会主催の講演料 5,000 円を寄付していただきました。
- ◆ 杉野光明様から下駄箱を頂きました。作業用の長靴などの保管にご利用下さい。
- ◆ 高井宏之様から、任意団体当時の会報「沼のほとり」のバックナンバー第 40 号から第 145 号(142 号、143 号は欠版)までの貴重な資料を頂きました。(事務局)

お知らせ！

- ◆ ホームページのリンク先に新たに、「我孫子野鳥を守る会」、「我孫子の景観を育てる会」、「NPO 法人手賀沼森友会」を加えました。15 周年記念シンポジウムに参加していただいた団体です。訪問してみてください。
- ◆ 4 月 24 日(水)にマルイグループ福祉会の皆さんがボランティアで樹林地の管理に来てくださいます。会員の皆さんも是非参加して交流を深めましょう。
- ◆ 5 月中旬ごろにご案内しますが、6 月 1 日(土)13 時から、けやきプラザ 9 階ホールで総会・懇親会を開催します。ご予約下さい。(事務局)

訃報

長い間ご支援いただいた賛助会員の石沢ミヨ様(92 歳)におかれましては、3 月 30 日ご逝去されました。謹んでお知らせ申し上げます。(事務局)

編集後記

- ◆ 本稿を書いている今(4 月 3 日夕刻)、早朝からの春の嵐もようやく静かになってきた。今年の桜は開花が早く、長い間楽しませてくれたが、この風で大分散ってしまっただろう。近所には白山中の校門、四小の東門に姿の良い古木があり毎年楽しみにしている。上野の山や隅田川に行かずとも、静かに花を愛でることができる。畑に行けば、根戸城址の桜が樹林地に映えて華やかだ。
- ◆ 四月、世の中は新年度を迎え、華やいで見える。学校でも、会社でも、役所でも新入生が晴れがましく見える。ぶかぶかの制服を着た中学 1 年生、スーツ姿がぎこちない新入社員等など、なんとも微笑ましい。
- ◆ わが手賀沼トラストも 24 名の新入会員をお迎えした。3 月 9 日に農教室の開講式、3 月 23 日にはジャガイモの植え付けとニンジン、ネギの種まきを体験していただいた。今月はおそらく初めてであろう米作りに挑戦していただく。(國方記)